

月刊 アカサス ニュース

第38号 1999(平成11年).9

8月号は夏休みのため休刊しました。

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアサミ」)です。

将来のエンジニアを目指せ! 初のものづくり教室を開催

トップニュース Top News



8月24・25日の両日、“工学部工作センター”を改組し、新しく開設された“技術支援センター”で、4つの「ものづくり教室」が催され、教室ごとに約30名の小中学生が参加した。

これは同センターの青少年を対象とした第1回目の技術教育であると同時に、文部省の「大学子ども開放プラン」の一環でもあり、理工系に興味を持つ子供たちを育てることが狙い。

父兄や先生が見守る中、子供たちはドライバーやペンチでアーム型ロボットを製作したり、マイコンを用いた電子工作に挑戦し、同センターの関係教職員や学生の指導を受けながら、楽しそうに理解を深めていた。

(関連記事は7ページ)

写真左上;教室1「ロボットを作ろう」では、教官が5時間かかるころを半分以下の時間で組み立てて、操作する子供も。

写真右上;教室2「プラモで作ろう!地震に強い家」では、実験室で地震を再現。プラモで各自、強い家を作ろうとやる気満々の子供たち。

写真左下;教室3「ミニハンマーを作ろう」では、本格的な機械を駆使して、ミニハンマー作りに挑戦。

写真右下;教室4「マイコンを用いた電子工作にチャレンジしよう」では、ハイテク電気製品の中はどうなっているのか、興味津津の子供たち。

= 8月24日・25日、工学部で





巻頭言

白雲悠々



学長
岡田 晃

平成5年の学長就任時に「...皆さん方がかざすたいまつに、やがては各部の多くの人々が、そして全学のすべての人々がたいまつをかざして加わり、これからの金沢大学の進む道を明るく指し示して頂くことを心から期待する」と述べてから早いもので六の年を重ねてきた。就任間もなく、これを認めると総合移転計画事業そのものが崩壊するという大問題となる角間地区に移転することになっていた某部局からの計画を白紙にしたいとする要請への対応に始まり、当面した教養部廃止、教育学部改組、保健学科新設などに取り組んだはじめの2年間。まさしく波瀾万丈であった。次の2年間では、角間キャンパスも200ヘクタールの広さに、そして総合移転第 期計画事業や、医学部附属病院の改築を中心とした宝町地区再開発事業などが始まり、それら

を軌道にのせることができた。最後の2年間では、本学が他大学に比して遅々としていた学長補佐体制を導入することができ、明年から副学長制が発足するまでにこぎつけ、これまで残されてきたハード・ソフト面の充実が図れた。さらに創立50周年の記念式典をはじめとした数々の記念事業も行い、50年後のあるべき姿も大胆にデザインすることができた。着実に、しなやかに、時には果断に対処することを心がけてきたが、これらはすべて力と熱情を注いで頂いた教職員各位の御努力の成果である。

金沢大学の行く手に、清らかな白雲が、大空に尽きることなく漂っていることを期待して題を「白雲悠々」としたが、これまで大変お世話になったことに心から感謝して退官のあいさつとしたい。

母校50周年の記念に作品を寄贈 彫刻家末政さんに感謝状贈呈

本学の卒業生である彫刻家の末政哲夫氏から、創立50周年を記念して自作のモニュメント「金澤の川の源」の寄贈を受け、7月12日、岡田晃学長が同氏に感謝状を贈呈した。

寄贈されたモニュメントは、角間キャンパスの学生会館前広場の一角、「金沢大学中央」バス停留所に向かう階段沿いの流れの源に設置されている



感謝状を贈呈される末政氏
= 7月12日、学長室で

作品を裏表紙にカラーで紹介





医学部附属病院 病院長補佐制を導入

8月1日、医学部附属病院病院長補佐に河崎一夫教授、小林健一教授、山下純宏教授の3氏が就任した。

国立大学の独立行政法人化が議論される中で、同病院では病院長に補佐を加えた4名の執行部体制をとり、地域における高度先進医療の担い手としての機能の充実を図る。

3人の病院長補佐は、それぞれ「病院経営改善」、「教育・研究、地域医療支援」、「診療」を担当し、任期は1年。



河崎一夫 教授
(病院経営改善担当)



小林健一 教授
(教育・研究、
地域医療支援担当)



山下純宏 教授
(診療担当)

大学をアピール! 各キャンパスで“学校見学会”を実施

8月4日、高校生を対象とした「金沢大学見学会」が催され、夏休み中ということもあり、参加者は1,200名を超え、キャンパスは多くの高校生で賑わった。

今年は全学部が参加しての大規模な見学会となり、午前中は全体説明会として、大学の概要、各学部の特色、入試の概要等の説明を行い、午後は各学部がそれぞれの特色を生かした模擬授業や施設案内を行った。

ある学部では、当初予定していた人数を大幅に上回り、担当者は、追加資料の作成に嬉しい悲鳴をあげていた。また、参加者からは「志望意欲が高まった」等の声が聞かれた。



実験の説明を聞く参加者
=同上、工学部で



写真上；満員となった会場の模様
=8月4日、大学会館大ホール(角間)で
写真下；計算機学科の説明を聞く参加者
=同上、理学部で



“総合的学習ってどういうもの？”

「総合的学習セミナー in 七尾 -総合的学習&情報教育-」を開催

教育学部附属教育実践総合センター及び石川県メディア教育振興会主催の“総合的学習セミナー”が、7月31日、七尾市内で行われた。

このセミナーは、本学及び本学附属学校園での研究や授業実践を基に、総合的学習の意義や方法、これからの課題などについて、参加者と共に考えることを目的に開かれたもので、県内を中心に北陸三県の小・中・高等学校の現職教員や教育委員会職員、本学教職員・学生等、約300人にのぼる教育関係者が参加し、活発な討議等が行われた。



水越敏行教授(関西大学総合情報学部)を講師に招いて行われた基調講演「教育改革の動向～総合的学習の時間と情報科の創設～」の様相
=7月31日、七尾サンライフプラザで

大学初 “インターンシップ”を実施

8月16日から20日までの5日間、県内の高校から大学までの学生・生徒を対象に、「金沢大学インターンシップ」を実施し、5人を受け入れた。今回、事務局が知る限りでは、国立大学では初めての試みであるこの“インターンシップ”は、大学における行政事務を体験することにより、大学で働くとはどういうことか、自分に向いている仕事は何かを知る狙いがある。

庶務部・経理部・施設部・学生部の各部分かれ、実際の業務を体験したインターンらは、初の体験に戸惑いながらも、今回の経験を今後に生かしたいと先輩職員の指導を受けながら一生懸命業務に汗を流した。

関連の写真もう4枚を裏表紙にカラーで紹介



写真上;テレビ局のインタビューを受けるインターン
=8月16日、事務局大会議室で
写真下;初々しいインターンの方々
=同上、アカンサス インターフェイス付近で

韓国で 「1999年日本留学フェア」

このほど、韓国のラディソン・ソウルプラザホテルで、(財)日本国際教育協会及び韓国日本留学者^{れん}联合会主催の「1999年日本留学フェア」が開催された。

本学からは、岡澤孝雄教授(留学生センター)、故林宥一教授(経済学部)、橘幹宏留学生課留学生交流係長が参加し、本学ブースを訪れたたくさんの留学希望者の質問に、元本学留学生、夫明煥^{フミョウファン}氏(自然科学研究科修了)の通訳を介して説明を行った。



留学希望者の質問に熱心に答える本学関係者
=6月27日、ラディソン・ソウルプラザホテル(韓国)で





短期留学プログラム受講生と意見交換会を開催

7月21日，事務局大会議室で，短期留学プログラム受講生を対象に講義内容等についての意見交換会が開催された。

短期留学プログラムとは，主として英語による教育を1年間行うもので，昨年10月に開設され，本年9月で第 1 期課程を修了する。意見交換会では，教わる側・教える側・お世話する側からと，それぞれの立場からの意見交換が活発に行われた。また，引き続き，場所を変えて懇談会を催し，更なる交流を深めた。



あいさつする中山謙二短期留学プログラム小委員会委員長(自然科学研究科・教授)
=7月21日，事務局大会議室で

恒例の社会教育主事講習を実施

7月21日から8月27日にかけて，大学教育開放センターで，平成11年度社会教育主事講習が行われ，計77名が受講した。

この講習は毎年，文部省の委嘱事業として行われているもので，社会教育主事となるために必要な知識・技能を修得しようと北陸三県及び岐阜県から多くの受講生が参加している。



開講に当たってあいさつする岡田晃学長
=7月21日，大学教育開放センターで



開講式で“ちかいの言葉”を述べる受講生代表岩田美智恵さん(福井県)
=同上

本学へのお客さま(7～8月)



D.ツェノフ経済アカデミー(ブルガリア共和国)のA.D.ベトロフ学長(写真中)ほか
=7月7日，学長室で



レイビエラッド在日イスラエル大使館経済担当公使兼副大使(右)
=7月29日，学長室で



学長の動き

建設中の医学部附属病院の免震構造を視察

7月30日、安全で快適な空間を提供できるよう現在、建設中である医学部附属病院病棟の免震構造を、岡田晃学長が建築課長の説明のもと視察した。この免震構造によって、大地震時にも患者と建物の安全が確保され、継続的に医療活動を行うことが可能となる。



地下1階の柱直下に配置する免震装置を視察する岡田学長
= 7月30日、医学部附属病院で

はせ 馳参議院議員とネジールちゃんをお見舞

目の難病、^{ちようまくがさいぼうしゆ}網膜芽細胞腫の治療のために本学医学部附属病院に入院しているユーゴスラビア・コソボ自治州のネジール・シニックちゃんを励まそうと、7月31日、馳浩参議院議員と共に岡田晃学長が、同病院を訪れ、「早く病気が治るように、応援しています」などと励ましの言葉をかけていた。

(関連記事は7ページ)



馳参議院議員と岡田学長の激励を受けるネジールちゃん一家
= 7月31日、医学部附属病院で



国際交流協定締結大学 (その14)

チュラロンコン大学 (タイ) 〔1999.7.16 協定締結〕

7月16日、本学は、タイのバンコク市内にある伝統大学、チュラロンコン大学と大学間交流協定を結んだ。

タイで最も歴史のある大学のチュラロンコン大学は、18学部11研究所3学院からなり、学生数は、学部・大学院合わせて2万5千人を有する総合大学である。

本学とは、工学部が20年前から学生の受入れなどで交流を続けてきたが、正式に協定が結ばれたことで、今後、東南アジアの大学間交流拠点として、積極的な学生の受入れや研究者交流を進める。



協定締結のため現地に赴いた岡田晃学長と大橋信喜美留学生センター長(理学部教授)
(写真左から順に6番目、5番目)





奮闘! インターン

(関連記事は4ページ)

庶務部



杉山有希子さん(右)

経理部



寺田梨絵さん(左)

施設部



中澤 潤さん(左)
前垣内伸介さん(中)

学生部



長谷邦記さん(中)



本学創立50周年を記念して寄贈された末政哲夫作のモニュメント「金澤の川の源」
高さ2.3メートルのステンレス製で、末政さんが浅野川を眺めていてひらめいたという直線と曲線で構成された作品

(関連記事は2ページ)

THE DORAKU 12

楽走会

仕事場のパソコンに向かいながら「最近運動不足だ」と感じたことはありませんか?もしそう感じたら、日頃車で通っている道をジョギングしてみてもいかがでしょうか。普段、何気なく見ている風景が一味違って見えてきたりするから不思議です。ゆっくり変化する景色、木々の香りや虫の声、何か忘れていたものを思い出したような気になります。そんなこんなでジョギング愛好者が集まって、教職員ランニングクラブ「楽走会」が発足しました。男女合わせて十数名の会員があり、名前のとおり「楽に楽しく走ろう…」と市民マラソン大会などに参加してアフターRUNを満喫しています。興味のある方はぜひ世話係(kagawa@t.kanazawa-u.ac.jp)までお問い合わせください。

香川博之(工学部)



走った後の楽しいひととき

このコーナーは、皆さんの趣味や熟中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成11年9月17日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピーズ)」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jpでも受け付けています。

